



## 夏の

# 山村地方の保育

岩 崎 香

衣裳そのものを心から愛しそして私の青年らしい歡喜を以て自然に愛着した。そこで私は山水というものはこのような気持ちでみるとその美しさを増して見えるものであると云う事を初めて発見した。

私はこの消息を次の言葉で云つて見る。「我々が自然に接することが親しければ親しいほど自然は総てを一層美化して我々に戻して来る」これは心情に感じたところを私の精神が初めて敢て云い表して見たのである。後年になつてしばしば私はこの言葉の眞実であることを知つた。」

私は現在疎開したまま静島眞の田舎に十年ちかくも生活してきました。そしてその間に山村の幼児をふくむ子供について色々の事を経験し考えてきましたが、その考えと、時折東京から帰省して見ていた頃の山村の幼児に對してもつていた考えとの間には色々のくいちがいが数々あります。

都会生活を私がしていた頃にははつきりとした形をとつた考えではありませんが漠然と頭の中で、朝夕豊かな自然の中に生活をしている幼児は自然界とか現象については、都会生活を持続している幼児よりは興味をもたない

のではないかと云う事を考えておりました。ところがこうやつて私自身を落ちつけて山村で生活してみますと、山村の幼児、子供は突に自然に深い愛着を無意識にもつており又様々の自然現象に對しても非常に敏感である事を幾度か折にふれて知つたのです。

幼時自然の中に花を摘み枝葉を弄んで生活をしたフレイベルは、親友のウツカーマルクの美しい農場を訪ねた時、

「この美しくて而も静寂な周囲を私は花から花へと胡蝶のように楽しく飛び廻つた。私は自然の彩られたそして眞珠で飾られた

と云う一節を彼の自伝の中に書いていますが、語ることの出来ない心の中に括つている自然への愛着もこの傾向のものである事を私は感じとるのです。

山村の幼児、子供はみち溢れる美しい自然の中に生活をしているのに一刻をも惜しんで小川を求めて歩いたりみどりの深い山を目指して歩く事がとても好きです。

ほおを切る様な寒風のふき荒ぶ冬につもつた厚い雪の下からすみどりのふきのとうが頭をもたげ、黄色、白、桃色、紅のとりどりの色と形をもつた花がそこここにやわらかい

みどりの葉をつけて咲きみだれる頃からは幼児達は自然界のよみがえりと比例して活動的になつて行きます。そして夏は幼児の活動は頂点に達します。早い日の出と共に幼児の活動ははじめられ一日疲れたのも忘れてあたかも何物かにもせられた様に懸命に自然の中をかけ廻つております。

小川の魚とりに、水泳ぎに、蟬やとんぼや蟻々を追いかけて夏草の咲乱れる野山に、くると日もくると日も幼児はあくことなく活動をづけまします。自然即生活の様な毎日を送つてゐる山村の夏の幼児の保育につきましては私共幼児を保育するものはどう云う事を考えたらよろしいのでしょうか。

私はまず第一にすべての点において最も戸外生活の適当であるこの時期に更に豊に自然生活することが出来る様に幼児の保育を計画して行きたいと思ひます。現今の様な社会の情勢では幼児の生活をすべての点で最低線においてさえ保障してやる事が困難でありますけれど自然を基に生活することは貧富の差もなく男女の差もなく出来得ることなのでから私達保育するものは、幼児のよい相談相手となつて幼児に心ゆく迄自然生活をさせた

いものだと思ひます。幼児は自然の中に遊ぶことによつて生命について考え、魂について考える機会を与えられることと思ひます。

再びフレーベルの自伝をひいてみますと、「自然との接触はすべて人間を高尙にし、力強くし純化するものである。故にこのよきな自然は恰かも氣高い偉人の様に人の心を惹き附ける。だから私の生活も亦学校及び教授の許す場合には何時でも自然における生活であり自然と共にする生活であつた。近くの高い山の頂から私は鮮なそして静に沈み行く太陽や遙か彼方から薔薇色の光り輝く残雪や氷河やアルプスの山脈やを眺めて楽しんだ。實際夕方の散歩は晴朗な日の落ちる頃は私に欠くことの出来ない必要なものであつた。

照らされている広い岡の上を或は水晶のように清らかなそして鏡のように滑らかな湖水の静な岸辺に沿うて、或は高い林樹のうつ蒼とした葉間の道を逍遙する時私の魂と私の心情とは純粹な神の実在と人間の高き価値とのイデーに充ちそして私は幸にも人間を神の愛児と考えることが出来た」とありましますが山村にかけめぐる幼児の心と

偉大なフレーベルの心との間には大それなへだたりがありますが、私は傾向として同じ方向のものであると考えます。そしてもしも夏の山村の緑の厚く繁つた枝をはる樹の下で昆虫と戯ぶ幼児が語ることができたなら、又澄んだ小川に小魚をおう幼児が思いのままをのべる言葉をもつていたならばフレーベルに共鳴する何もものかをきく事ができるかもしれませぬ。しかし語ることの出来ない幼児の輝いた顔からは言葉を通してでなく直接心から心へ無形のしかももつとも雄辯な喜びの表現を受けとることができません。

次には幼児達が充分に自然の中に生活をし得た収穫を心の庫におさめてやりたいものです。それには私達保母には愛情だけではなく科学的な知識・技術を必要とするでしょう。知識と云うものはこれでよいと云う限界がありませんが、出来るだけ努力して獲得したいものだと思います。日毎幼児の保育に疲れ難務に追われる幼稚園の先生や保母さんにとつては限られた時間と体力とでは勉強も思う様には出来ませんけれど、幼児のもともめる何分の一の答えを正しく与えてやりたいものだと思います。

そしてもう一步進んで幼児の得た取獲を展

開させて表現をするところ迄もつて行きたいものだと思ひます。一般の農村の人達は色々のよい長所をもつておりますが、欠けていることは表現のできないことです。これは表現をしないから出来ないとも考えられることなのですが。心の中にあるものを素朴な形においても表現すると云うことが出来ないといふことは大きい欠点だと思います。

ある夏P・T・Aの会合に行つてもそれをしむじみと感じた事でした。集会の時間中は司会者から幾度うながされてもつまらない簡単な議事に対して賛否さえの発言もしない人達は、いざ解散をして校門を出た瞬間誰もかれも競つて意見をのべるのです。しかもその意見の大部分が悪意にみちているのです。豊かな自然を対象として生活を何十年かつづけてきた人々の心の中のの片すみにまわりの自然の美しさから得た取獲はひそんでしまつたのでしようか。そして善意の表現をこの

自然は山村の人達に教え導くには左程に力の弱いものだつたのでしようか。私は大胆な結論かも知れませんが、幼児期からのすべての点における適当な訓練が欠けていた為ではな

かつたであらうかと考えるのです。

幼児一人一人の天分において力一杯の表現を、切角自然の中に生活して得た取獲の表現をすることが出来る様な御手伝いを先生や保母さんはしたいものだと思います。各自の個性においてそれぞれの持味を生かした表現を言葉の上に絵の上に音楽の上に又それ等の綜合されたものの上に、心ゆく迄する事の出来る幼児が生長をした山村は、やがて明るいそして調和のある形態をもつた美しい自然にふさわしい山村となる事でしょう。

山村の保育は勿論夏の方に重点をおくべきではなく四季折々の変化にふれてよい保育をすることが出来ましようが、ふたばの幼児にとつては夏は格別たのしい時期かとも思ひます。この戸外保育に適した夏は他方において又病気の多い、そして、悪い昆虫がはびこつたりばい菌の繁殖する時期でもありますから、切角のこの季節に幼児にとつて大きな苦痛を与える禍いのもととなる様な身体的障害の起らない様に、先生方や保母さんは特に細心の注意を必要とするのではないでしようかと思ひます。

最後に、ペスタロッターの「隠者の夕暮」

の中から

人間よ、汝はかかる自然の秩序に於て真理を探求せよ。さらば汝は必ずや真理を見出すであらう。

又汝の立脚地のために

又汝の走途のために

如何にその真理を用うべきかを。

をここにひきまして、この言葉によつて保育にあたる私共は、自然生活の中において与えられます永遠に価値の失せない寶石を、ペスタロッターが指示してくれました事を改めて此処にくり返し瞑想をもつて考えてみたいものだと思います。

色々の点で不十分な原稿で諸先生方先輩諸姉又同じ道にいそしむ皆々様方に申しわけございませんが御判読いただきたく存じます。保育界のよい発展を皆々様と共に祈りまして筆をおきます。

(保育園長)

× × × ×

× × × ×

× × × ×